週刊 磐城之實業

每週日曜日發行

發行兼編輯 印刷人 大和田與平
發行所 磐城之實業社 平町古鍛冶町九十二 電話五五番
定價 一部金五錢 郵税共 半年分 一圓廿錢
廣告料 一行三十錢 假揚所 指定増十錢
印刷所 大和田印刷所 平町南町五十番地 電話四六番

農業經營の改善（二）

大和田糸雄

丁抹國は北歐に僻在せる一小帝國にして人口僅に三百二十餘萬を算し地域は我北海道の約半分位なそうであります而して生產物の輸出高は毎年四億圓以上なりとは何と驚かざるを得ぬのであります勿論農作さしては我國と趣を異にし主なる生業は牧畜であります普通農家として乳牛五十頭豚五十頭鶏百羽が通例であります而して主要產物として牛乳は製酪に豚は塩肉に鶏は生卵又は生肉にてドシ／＼輸出するのであります。

夫等の機關と致しまして何れも數多の組合を組織し會社を設け品位の査定は政府技師が嚴重なる檢査の下に統一して英國其他に販出するそうであります。

由來生粋なる農業立國でありますから學校の如きは普通教育以上は何れも私立農學校、高等國民學校等でありますが此等學校は何れも政府の補助によつて經營せられ官立學校の必要なき位なそうでありますかように實業學校のみ多いのでありますから卒業直ちに實業に入るので生產力の發達は當然の歸結と申さなければなりません。

あらゆる生產物は一々組合に依て評定販出せられ又自家の需要品は是又組合によりて配給せらるゝのでありますから云はゞ買ふものは安く賣るものは高くと云ふ調子に出來て居るので都市以外には全然小賣店の存在を認めぬそうであります。

又他國の全然模倣し得ぬ處は此國には自作農保護法案なるものありて農家として新たに一戶を設けたきものには一戶當り七町歩を程度として九十九ヶ年賦なる低利配給を爲す事であります尙大地主に偏有せらるゝ場合は所有高三分の二までは強制買上をなし以て小民に分賦貸付をなすそうでありますモーッ感歎に堪へぬ事は精農家に對し六十歳以上になれば恩給を呉れる一事であります何と羨ましいではありませんか斯樣な美風の下に比較的豐富の生活を爲し居るせいでもありませうが丁抹國には浮浪生活又は乞食等は全然見ることが出來ぬそうであります隨て不良團の取締りも入らぬ爲め村落には巡査の駐在を要しませんそうであります。

以上は丁抹に於ける國情の大要を述べたるに過ぎません是より本問の碧海郡の農業經營振を紹介することにしませう。

事をきわむれば 滑稽也

友引と鬼門迷信打破

社中同人筆

家庭と信仰、家庭と迷信は昔から深い／＼關係にありますがつまらぬ迷信の爲めに我々の實際生活が非常に損をしてゐることは枚擧にいとまないほどあります多くの人々が迷信に動かされてあるひは**身體**を害しあるひは苦悶を增し、無益に努力するなど全く弊害百出といふ有樣です、いま家庭に最も密接な關係のある二三の迷信を申しますと

友引

友引といふのは六曜の一つであります、六曜とは先勝、友引、先負、佛滅、大安、赤口の順序で循環するものとして日の吉凶を占ふ法であります、これによります舊歷正月は朔日を先勝としそれから友引、先負と順に數へ二月の朔日は友引としそれから前と同じやうに順に數へるのですかういふやうに數へた友引の日に葬式をすることを忌む習慣が今日一般に行はれて居ますがこれは今から約八九十年前**天保**年間の頃から始まつたものでそれ以前は行はれなかつたものであります元來友引といふ意味は『あひうち友引と勝負なし』であつたのが段々葬式の方の友をひくといふやうに解せられたもので事の起りを知れば誠にをかしなものです、それが迷信として今日の世になほ多數の人の心を支配してゐることは誠に嘆かはしいことです。

鬼門

方角の吉凶の中に鬼門といふのがあつて家相上やかましく說いてありますがもとこの鬼門といふことは支那の古代に行はれた小說にもとづくものでそれは東海の中に度朔といふ山があつて山の上に枝のまはり三千里にも及ぶ大なる桃の木がある其の東北にある門を鬼門と稱へ一切の鬼のあつまる所でこれを神荼、鬱壘といふ二人の兄弟が守つて居り天帝の命によつてこれらの鬼を檢閲しもし人に害を及ぼした鬼があれはこれを葦の索で虎に食はしめたといふのでありますこんなことから東北を鬼門といつて忌むやうになつたのですが支那でも**東北**ばかりを嫌つたわけではなく其時代によつて區々だつたのです、これらの點から見ても鬼門なんどいふことは迷信だといふことがわかります、次に一般に行はれてゐる『夢占ひ』安產のおまじなひなども根據のないことです。

平附近の東京紙 混亂せる販賣戰

地方新聞極端に壓迫さる

最近中央の新聞が平を中心に附近村落までに地方新聞の領域を蠶食して其の壓迫の嘆を盛んに聞くに至つたことは中央の新聞は記事內容に於て社の組織、資力に於て勝つて居るに加へて賣らんが爲めに作られ賣らんが爲に活動しつゝあるに反し地方紙は無活動狀態の手も足も出ず減紙に次ぐに減紙と云ふ悲慘の狀勢で平驛におろす各紙の斤量を調查し其紙數を計算するに及んでは第一位は東日で比例は東日の百に對し朝日七十報知五十國民四十時事及每夕三十と云つた數字で其他は比較にもならない位である地方紙では民報、民友、いはらき、福新、河北と云ふ順位で三百枚を突破するもののなきに至つては其の振はざること論ずるまでもない然して東京各紙は昨今猛烈なる擴張戰を開始し濫賣も敢て厭はぬといふ販賣競爭に擴張員は朝日も東日も時事も其れに讀賣はクリームの景品付での勸誘振りに益々混亂狀態となりつゝあるのである。

近事片々

□ 比佐氏の任官祝賀會の貼札に先生とは書いたが比佐昌平閣下とは筆を走らせなかつた此處等が人間比佐の生命ある處か？。

□ 政局安定、石城政界、反黨政友會春夢一陶殿堂人の觀ある時民政黨情益々異狀あり。

□ 春光照々舊勢力の人に失意は春深ふして落花の感を政友會に發見す。

□ 勞働祭が近づく炭礦近くの平町でデモを見物出來るかどうか。

□ 團体的の斯うした催に一日の仕事を休んで參加する程の訓練を受けて居るや否や

大和田印刷所 平 南町

農村便り（二）

地方町村の財政的破綻はます／＼深刻化して小學教員の俸給不拂ひ町村數は實に千五百町村をかぞへるに至つたといはれ我石城郡內にも五六ヶ月遲れの村落が六ヶ村ばかりあるこの財政的**窮乏**を如何に堪へてゆくか如何に切り拔けてゆくかは今後の重大な問題であらねばならぬその對策は如何！曰く官公吏軍人の俸給恩給の減額による地方町村民の負擔輕減——曰く義務教育費の國庫負擔の增額等々全國町村長會でも一も二も國家政府の庇護の下にのみ町村救濟の對策をさけんで來た觀があつたが町村民自身の自覺から合理的な生活改善による經費**節減**が最もこの時局に際し重要な役割をもつといふ見地から全町村民の生活改善が提唱され全國町村長會ではその調查に着手することになつたその第一歩として町村民の過重な負擔であるところの婚禮の改善と合理化を計ることになり全町村から改善された好範例を調查したがその中には傳統的婚禮の風習を破壞した**奇拔**なものがあるその二三を東北地方に求むれば

◇

然も本縣伊達郡五十澤村では式服は男は木綿の黑紋付に同縞の袴、女は木綿の黑紋付に死斯丸帶、白襟襦袢これで花嫁仕度は二十圓この新調さへ出來る着は村で備へつけた式服を貸す仕組結納も農具類、祝宴の時間も二時間以內、贅澤な調度を持つてゆく者は皆で笑つてやれと決議して着々決行

◇

秋田縣南秋田郡一日市町女子青年團が發奮して式服は團員百五十名が藁加工作業で得た九十三圓で質素な禮服一揃ひをつくり團員は何んなことがあつても必ず之れを着用おまけに酒のみの青年とは結婚しないことまで規約の一つに加へてゐる

◇

その他全國各地方町村の結婚は生活改善の**眞劍味**が躍如として窺はれる各地で共通的に問題とされて居る主なるものを擧げると

一、箪笥、長持を結婚式後に送つて荷物の競爭を防がんとすること

二、結婚客席に出て衣裳替することを廢すること

三、婚禮の費用を年收の一割乃至五割以下と制限すること

四、饗應の時間を十二時限りとすること

五、花カンザシを共有品とすること

六、神前の結婚をすること

先づ官公吏軍人の俸給**恩給の**減額は勿論必要で今後も大いにさけんで輿論の喚起を計るべく町村民の生活改善は更に必要なこと其の第一着手として婚禮の改善を全國的に計りそれを全町村に好範例を示すべきである。

縣議戰線 展望記 (二)

若松氏の立候補と 萩原氏の胸裡 結局兩名共 出馬と決定か

比佐氏の任官によつて石城民政黨は其の情景を最もあざやかに大いに邁進の氣勢をあげたものである、斯くして更新の意氣は更に新らたなるものがあらう。

此時、秋の縣議戰は最も有利に展開され倶樂部組に於て確かに三名の公認候補者を出すことであらう、地盤の關係上其の一名を舊菊田にとり他を現役兵の若松美三氏となし殘り一名は昨今盛んに幹事長たる萩原毅雄氏は大野村木田剛氏に正面運動を試みて居るも其れは亡父織江氏が我黨の先聖でもあり悲慘の最後に同情しての大衆利用の一策戰と見れば見られるのである。

然れども事實の前に於て誠に賴み少き一縷の幻影に過ぎないではなからうか、是は政界の推移には間隙余りにも多く氏の環境は必ずや立候補難局に逢着することは期し得らるべく此の事決して毅雄氏として知らざる筈なく問題は急激に轉換されることは豫期するに敢てかたからざるものであらう然る時は政治形態に於て幹事長でもあり比佐氏には事毎に滿悅の人間味を贈呈して居る萩原氏に周圍の事情は必ずや滿場一致で候補推薦となり得意時代の明星の如く自己を解釋する氏としては斷然出馬することゝなるであらう。

コマツ書店

機敏薄利の奮鬪

平町才槌小路乾書店をコマツ書店と看板を塗替へたは平潟の資產家小松文兵衛氏が乾氏の令弟なるより資金の一切を小松氏に求め乾展次氏は從來通り經營の任に當り奮鬪することゝなり全く陣容を一新し豐富なる資力を以て書籍に雜誌に文具紙類洋品等打底的値段で親切、迅速、薄利をモツトーとして努力しつゝあるして其の繁榮振りは非常な許判と人氣とは店頭に集注ものである。

工事完成の平電力

今後の進展に興味あり

平驛前に本社を有し赤井村大字高萩字山ノ入の小玉川に發電所を有する平電力株式會社は去四年九月着工し本月中旬通水し工事完成したのである總工費七十五萬圓は全部日立及加組藤より借款によるもので之が返濟期間も近くに迫り居るものゝ如し而して該會社は公稱資本金百十萬圓第一回拂込額二十七萬五千圓第二回一株五圓の拂込は四分の一たる三萬强、未拂込は第二回の未收額を加算して七十五萬五千圓程あるも財界不況の今日完全拂込を了して借入金の返濟をなすべくもあらず然らば他よりの資金調達も容易に進展するものにも非ざるべく此處が社長栗原欣次郎氏の大なる手腕と惱みの存する千番に一番の腕の光を見せる事となるのではあるが敏腕を常に賞讃されてる氏としても頗る行惱みの態らしい而して該發電々力は日立電力株式會社へ一千四百キロを年一キロ九十圓、十二萬六千圓は確定收入となり居る以外に百八十キロを一キロ年百四十圓で礪島炭礦に賣電しゐるのである斯く數字上から見れば順調に利益あり經營易の會社ではあるが從來大瀧發電所水利權其他問題で費消した金額約二十二三萬に達し居る事とて債權者日立製作所への解決を如何にすべきかゞ興味の中心となつて居るのである。

オアー界夜話

平町議諸君の數名は常に熱心に町財政の研究に余念がない、町の財政といつても個人の家庭經濟と同じだ、金がありませんでは濟せない、その對策を講じなければならぬ決して町理事者のみに委せてをけるものではない、町營事業を起すとか不用財產を處分しそれを有利に活かすとか新財源を見出すとか對應療法を講すべく調査研究に努力して居ることは感心なものである、公企業、稅制調査、社會事業調査など突込んだ現實的な意氣で働きつゝあることはやがて具体的の現れとなつて來るのであらう。

政界茶ばなし

民政黨では今秋の府縣議戰を前に從來の政友會の努力を一擧に顚倒すべく我黨天下の選擧であるから必勝を期すべく策戰を立てるし政友會は不景氣問題と行詰の政策を攻擊材料に倒閣運動卽ち府縣議戰として奮鬪することであらう、而して全國の府縣會議員における現任の政民兩派勢力は政友派の九百九十名に對し民政派七百五十名である昨春の衆議員總選擧に於ける政友派の總得票三百九十萬に比し民政派の五百五十萬であるこの比率をもつて觀る時は政友六百九十名、民政九百七十名となり更に我黨內閣の手心如何の策戰によつては民政千二百名を獲得することと敢て易々たるものであると吹いて居るが政友派の減ることだけは間違えないことであらう。

藝妓日記

○月○○日

妾は新田町の名もない藝妓ですが其の日記の一部でもよいから磐城之實業紙上に發表せよとの話に思ひ切つて書せていたゞかせてもらいませう。

◇……◇

妾達にとつて恐ろしいのは何と云つても月末です、けれども月に必ず一度は嫌でも迎へねばならないのですパトロンを持つてゐる者は平氣で居られるけれどなか〳〵注文通りの胸に三百度からの高熱で可愛がつてくれる男は不景氣の今日此頃では更に見當らないのでやつばり支拂のストップをしてしまうのです、勿論吳服屋の借も化粧品も其れに特別勤務に勵功ある櫻紙代をも申譯ないとは知りながら待つて貰ふのです。

◇……◇

考へて見ると藝妓と云ふものは身代の前借金から吳服屋さんを初め色々の商人さんに借金を支拂ふために生活して居るものゝお客さんはそれを支拂ふ一部の義務を負ふてをるやうなもの是れを實行してくれなければサービス四疊半會でおつとめ性の合理化するにも及びませんでしよう、赤い灯が點きやお臍が痒い箱入娘でもなければ……エロ感時代でもないですから…たゞエロサービスはお客の財布の底をたゝかせるがための交換條件なんですものホ、、笑つちやいやですよ、まあ此の位で許して下さいサヨウナラ

古今處世訓 一

一、信用を人に取れば財の足らざることなし

二、人の道は心にあり、人の心は行にあり

三、自ら勞して食ふは人間獨立の本源なり

四、心に誤りなきときは人を畏れず

五、成功の秘けつは志の一定不變なるにあり

△△△△△ おことわり

運載の宗教記事と『うらみの一刀』は紙面の都合上今回だけ休み。

俗謠雜筆

前號に自由筆硯各紙參與官名物男江尻君が民謠に現れたる名地の風物と題し特意の筆を採れたが筆者もやはり民謠の禮讚者である、鄉里炭城なるが故に殊に潮來節を愛する譯ではないが昔曲の名人これを吹込んだレコードを聞く時、テンポがゆるくつて何とも云へず陶然としてしまふ。

潮來出島の眞菰の中に菖蒲咲くとはしほらしや

×

宇治の柴舟、早瀨を下る
わたしや君ゆえ上り舟

×

花はいろ〳〵五色に吹けど主に見かへる花はない

是れを若者に聞かせたらば惻々たる戀情か湧いてきて全く好い氣持になつてしまうのではあるまいか淡々仙人の如き筆者と自稱する勇氣はないがこれを本調子の優艷極まりないところで唄ふならば大底の人は現代を離れてしまふであらう。

たとへ別れて遠ざからうが日々に思は增すわいな

×

思ふて見さんせじれまいものか二十日余りも逢ひもせぬ。

×

逢ふて話は山々あんどたまさか顏見りや胸迫る

×

いへば恨みがわしやあるけれどいはぬ心を察しやんせ

×

逢ふた夢見て笑ふて覺めてあたり見廻し淚ぐむ

斷然潮來節をはやらせたいと僕一個は考へてゐる。

平町新風景

三萬町民必讀の大文字にして題名に依つてヨタ文藝ものと誤るなかれ。町勢一班、歲入、歲出經常部、歲出臨時部、特別會計歲入之部、水道歲出經常部、上水道擴張歲出臨時部、名鑑等百二十頁に渡る今だ曾て町經濟の內容を調査研究評論して町民諸君に發表したる親切なる書册なきを斷然勇敢に提供するものなり謹で一讀を乞ふ。

磐城之實業第百五十四號附錄なれども頒價實費として三十五錢を受く